ISSN 0919-0821

おおてみち

第53号

平成17年（2005年）10月8日
滋賀県立安土城考古博物館

平成17年度秋季特別展
蒲生氏郷生誕450年記念

蒲生氏郷（がもう うじさと）

―戦国を駆け抜けた武将―

伝氏郷所用燕尾形兜
（岩手県立博物館蔵）

蒲生氏郷（賦秀）禁制　（長命寺蔵）

蒲生氏郷画像（西光寺蔵）

10月8日（土）
～11月6日（日）

平成十七年度秋季特別展
蒲生氏郷生誕四五〇年記念

蒲生氏郷

―戦国を駆け抜けた武将―

戦国時代、近江（現滋賀県）から出て活躍した武将の中で最も出世した人物は、蒲生氏郷だったのではないでしょうか。とはいえ、「蒲生」の姓が当博物館の所在する蒲生郡に起因することを認識している人は、あまり多くないようです。

蒲生氏は、現在の日野町周辺を基盤に南北朝時代頃から頭角を現してくる一族で、南近江を支配する六角氏の守護代や郡奉行も務めつつ、かなり独立した活動も行っていました。織田信長が近江に侵攻してくると、氏郷とその父賢秀は信長に従い、人質として岐阜に送られた氏郷は、そこで信長の娘と結婚します。信長そして豊臣秀吉の天下統一事業に協力した氏郷は、近江日野六万石から伊勢松坂十二万石、会津四十二万石と次々と広大な領地を与えられていき、四十歳で亡くなる直前には、九十二万石の大大名にまで上り詰めます。

また、氏郷は新しい領地それぞれで、自らの居城を築いていきますが、それは安土城や大坂城で培われた最新の築城技術を駆使した城でした。松坂城・若松城（現会津若松市）が、それにあたります。

展覧会では、このようにわずか四十年の間に、戦国の世をそして日本各地を駆け抜けて活躍した「近江人」蒲生氏郷と、その基盤となった蒲生一族について、関係資料をとおして紹介していきます。

主な展示資料

（◎は重要文化財　□は府県指定文化財　△は市指定文化財）

◎蒲生氏郷画像（西会津町西光寺蔵）
◎六角氏奉行人連署禁制（離宮八幡宮蔵）
□伝氏郷所用燕尾形兜（岩手県立博物館蔵）
□蒲生定秀副状（京都市頂妙寺蔵）
蒲生氏郷起請文（仙台市博物館蔵）
伊達政宗甲冑像（仙台市博物館蔵）
豊臣秀吉朱印状（福島県立博物館蔵）
松阪城跡出土瓦（松阪市教育委員会蔵）
若松城及城邸古図（甲賀市水口図書館蔵）
伝氏郷所用茶杓（本居宣長記念館蔵）
△蒲生氏郷茶日記（個人蔵）

関連行事

記念講演会「豊臣政権と蒲生氏郷」
講師　藤田達生氏（三重大学教授）
日時　十一月三日（祝）午後一時三〇分～

博物館講座「文書に見る蒲生氏郷
―日野・松坂・会津―」
講師　高橋充氏（福島県立博物館主任学芸員）
日時　一〇月三〇日（日）午後一時三〇分～
※会場はいずれも博物館セミナールーム
定員は一四〇名（当日受付　先着順）

（財）滋賀県文化財保護協会調査整理課通信

甲賀郡内の三つの城郭調査

平成一七年度の整理調査から

調査整理課では、平成一六年度甲賀郡内で発掘調査した第二名神高速道路建設に伴う竜法師城・高野城、ほ場整備事業に伴う植城遺跡の三件の城郭遺跡の整理調査を実施しています。近江は全国でも屈指の城郭王国といわれ、中でも甲賀郡内は、城郭銀座ともいえるほど、現在もたくさんの城跡が民家の中や裏山に保存されています。しかし、これまで、これらの城跡の発掘調査はほとんど行われたことが無いのが現状でした。甲賀といえば忍者の里として有名ですが、城との関わりや、城そのものの構造、城同士のネットワーク形態など、まだまだ解っていないことが多いのが実態です。これらの調査がその解明の手がかりとなればと考えています。

さて、整理課ではこの様な整理中の遺跡の成果や、整理調査の方法や過程などを広くみなさんに知っていただくために、十一月二十日に『あの遺跡は、今！』と題して整理調査中間報告会を催すこととしました。みなさんのご参加をお待ちしております。

植城で発見した堀跡

収蔵資料紹介

東光寺遺跡出土呪符木簡　二点

一号木簡　二三二・〇×三・七×〇・六センチメートル
二号木簡　残存長二六・五×二・八×〇・五センチメートル

東光寺遺跡は大津市大萱二丁目に所在し、昭和五八年に滋賀県教育委員会が実施した発掘調査で、七・八世紀頃と十一世紀後半頃の二時期の遺構・遺物が検出されました。呪符木簡二点は、十一世紀後半の八間以上×六間の総柱の掘立柱建物の、北東隅の柱穴から出土したものです。柱穴は直径四〇センチメートル、深さ四七センチメートルの二段掘りになっており、一号木簡は柱穴下部に直立した状態で、二号木簡はその上部に二つ折れの状態で出土しました。

一号木簡は下端部を先細りに尖らせており、下端部が腐食して変色していることから、一時期土中に差し立てられていたものと考えられます。一号木簡には道教系呪符の常套句である「急々如律令」の墨書がみられ、二号木簡でも「天罡鬼」などの文字がかろうじて読みとれることから、ともに呪符木簡であることが分かります。

木簡が出土した柱穴は、建物の北東隅に位置し、丑寅の方向、すなわち鬼門に当たる場所であることから、建物建立の際に呪符木簡を使用した道教系の祭祀が行われたものと考えられます。奈良時代の文献や都城・官衙関係遺跡では、道教系の記事や出土遺物が見られ、その後は陰陽道や民間信仰の中に浸透していったものと考えられますが、その普及状況については、必ずしも明らかになっていません。

東光寺遺跡出土木簡は、平安時代後期における道教的信仰の地方への浸透状況や道教的祭祀の実態を知る上で貴重な資料として、平成一七年四月二〇日付けで県指定の美術工芸品（古文書の部）になりました。

（田井中洋介）

一号木簡　二号木簡

安土城郭調査研究所通信

平成一七年度発掘調査の中間報告

今年度の調査は、大手道と下街道をつなぐ経路や構造物の確認、及び通称「内堀」の規模等の解明を目的に実施しています。現況駐車場内に数カ所トレンチを設定した結果、県道の北約一〇〇メートルの地点で、東西方向の石垣を検出しました。この石垣は、軟弱地盤上に築く際、石の不等沈下を防ぐために据えられた胴木の上に構築されていることや、裏込め石を充填していることなどから、内堀の護岸石垣の一部と考えられます。このことから、大手門及び石塁の前面には、南北四四メートル、東西一〇〇メートル規模の「広場」が存在していたことが明らかになりました。

また、この石垣は大手門推定地のほぼ真南で、南に二・五メートル（幅約九メートル）突き出て構築されています。この突出部については現段階では、①内堀を挟んで下街道に向かって橋を架けるための橋台の一部、あるいは②内堀に面した「船着き場」を想定していますが、いずれにしても大手門（道）に関連した施設の一部と考えられます。

今後、対象地の南半を調査する予定ですが、下街道から大手門にいたる経路等がより一層明らかになることが期待されます。

石垣突出部

博物館の主な催し

月	展示	博物館の行事
10月	10月8日～11月6日　秋季特別展 「蒲生氏郷―戦国を駆け抜けた武将―」	10日（祝）秋のお茶会（当日受付、約100名） 時　間・午前10時半～午後3時 場　所・当館敷地内旧柳原学校校舎（県指定文化財） 参加費・500円（実費） 16日（日）体験博物館「忍者になってみよう」（要申込、先着30名） 時　間・午後1時30分～約2時間 場　所・当館敷地内 材料費・100円（実費） 23日（日）博物館講座「蒲生氏郷文書を読む―古文書講読―」（当日受付、140名） 講　師・高木叙子（当館学芸課主任） 時　間・午後1時30分～午後3時 30日（日）博物館講座「文書に見る蒲生氏郷―日野・松坂・会津―」（当日受付、140名） 講　師・高橋充氏（福島県立博物館主任学芸員） 時　間・午後1時30分～午後3時
11月		3日（祝）秋季特別展記念講演会（当日受付、140名） 演　題・「豊臣政権と蒲生氏郷」 講　師・藤田達生氏（三重大学教授） 時　間・午後1時30分～午後3時 5日（土）親子で楽しむ写真撮影会 時　間・午前10時～午後3時 （雨天の場合は6日） 場　所・「近江風土記の丘」内の各地 参加費・無料 入選作品展示　12月10日～1月8日 6日（日）体験博物館「戦国食を作ろう」（要申込、先着20名） 時　間・午後1時30分～（約2時間） 場　所・当館敷地内 参加費・実費（材料費）500円
12月	第31回企画展 1月14日～4月2日	23日（祝）クリスマス親子映画会（当日先着、140名） 「どうぶつ宝島」 時　間・午後1時30分～ 場　所・当館セミナールーム 入場料・無料
1月		22日（日）博物館講座「近江の古墳文化について」（当日受付、140名） 講　師・田中勝弘氏（県文化財保護課参事） 時　間・午後1時30分～午後3時

＊講演会、博物館講座は当館2階セミナールームで実施（無料）

屋外展示の道標や常夜燈のご紹介

近江風土記の丘には、旧宮地家住宅や旧柳原学校校舎などの歴史的建造物が移築され、屋外展示として見学していただいていますが、このたび、道標や常夜燈などの石造品が新しく仲間に加わりました。これらは、大津市打出浜の県立琵琶湖文化館前に置かれていましたが、滋賀県警察本部の新築移転工事に伴って、引っ越してきたものです。

道標には「柳緑花紅　法名未徹」「みきハ京ミち」「ひたりハふしミみち」と三面に文字が刻まれており、もとは東海道と伏見街道の分岐点（大津市追分町）にあったものです。「柳緑花紅」とは宋（今の中国）の詩人蘇東坡の言葉との説もあり、春の景色の良いさまを形容しています。道標には年号が刻まれていないので、建てられた年代は分かりませんが、安永九年（一七八〇）刊行の「都名所図会」には紹介されており、当時には有名であったものと思われます。

このほか、「大津米屋中」によって建てられた「逢坂常夜燈」や、元禄十年（一六九七）に建てられた常夜燈、東海道に設置されていた車石、石山にあった国分寺の礎石と推定されるものもあり、歴史を伝える貴重な資料です。当館へお越しの節には、ご自由に御覧下さい。

おおてみち　第53号
平成17年（2005年）10月8日発行
編集・発行　滋賀県立安土城考古博物館
〒521－1311　滋賀県蒲生郡安土町下豊浦6678　TEL 0748－46－2424
E-mail：gakugei@azuchi-museum.or.jp　URL http://www.azuchi-museum.or.jp